

2025 全然堂歳時記 夏

【新茶】

20句

2025年6月11日

10行2段

UD 明朝 Md 12 桐 10

若葉して哀れ摘まるる新茶かな 古茶といふ音の響きも古茶らしく
擲して新茶娘が駄頭に ことと置く軽くて小さき古茶の缶
うつすらと汗かくころの新茶かな 長幼の序を退けて新茶古茶
送るてふ新茶待たるる釘煮かな 先達といふべき古茶を蔑ろ
新茶なり葉の面影はなけれども ぽつと出の新茶が古茶を蔑ろ
色も香も新茶なりけり飲むべかり 若きらに道を譲りて古茶啜る
湯加減を塩梅申す新茶殿 古茶を啜り古書の山にも手を伸ばし
千金の終の一滴新茶汲む 心して古茶の別れを惜しむべし
山葵漬なめて新茶をいれかへて 古茶新茶去年今年にも似たるかな
豆飯を食ふや新茶もごくぐくと 夏は新茶冬は蜜柑や富士を見て

2025 全然堂歳時記 夏

【新茶】

20句

2025年6月11日

10行2段

UD明朝Md12ポ 桐10

若葉して早も摘まるる新茶かな 羊羹も沢庵も良き新茶かな
擣して新茶娘が駄頭に チェスに紅茶、将棋の夜を新茶かな
うつすらと汗かくころの新茶かな ぼつと出の新茶ばかりをもてはやす
送るてふ新茶を待てる釘煮かな 古茶といふ音の響きも古茶らしく
新茶なり葉の面影はなけれども ことと置く軽くて小さき古茶の缶
色も香も新茶なりけり飲むべかり 若きらに道を譲りて古茶啜る
湯加減を塩梅申す新茶殿 古茶を啜り古書の山にも手を伸ばし
汲み分くる雫たのしき新茶かな 御僧と古茶を啜りて恙なく
豆飯を食ふや新茶もごくごくと 心して古茶の別れを惜しむべし
山葵漬なめて新茶をいれかへて 夏は新茶、冬は蜜柑や富士を見て

2025 全然堂歳時記 夏

【新茶】

20句

2025年6月11日

10行2段

UD 明朝 Md 12 桐 10

日本に新茶の五月来りけり 羊羹も沢庵も良き新茶かな
若葉して早も摘まるる新茶かな チェスならば紅茶、将棋に汲む新茶
擲して新茶娘が駅頭に ぼつと出の新茶ばかりをもてはやす
うつすらと汗かくころの新茶かな 古茶といふ音の響きも古茶らしく
送るてふ新茶待たるる釘煮かな ことと置く軽くて小さき古茶の缶
新茶なり葉の面影はなけれども 若きらに道を譲りて古茶啜る
湯加減を塩梅申す新茶殿 古茶を啜り古書の山にも手を伸ばし
汲み分くる最後のしづく新茶かな 御僧と古茶を啜りて昼の雨
豆飯を食ふや新茶もごくごく 心して古茶の別れを惜しむべし
山葵漬なめて新茶をいれかへて 夏は新茶、冬は蜜柑や富士を見て

2025 全然堂歳時記 夏

【新茶】

20 旬 2025 年 6 月 11 日

10 行 2 段 U D 明朝 Md 12 点 桐 10

日本に新茶の五月来りけり 羊羹も沢庵も合ふ新茶なり
若葉して早も摘まるる新茶かな チェスならば紅茶、将棋に汲む新茶
擲して新茶娘が駄頭に ぽつと出の新茶ばかりをもてはやす
うつすらと汗かくころの新茶かな コチャといふ音の響きや古茶いとし
来るべき新茶を待てる釘煮かな ことと置く軽くて小さき古茶の缶
新茶なり葉の面影はなけれども 若きらに道を譲りて古茶啜る
湯加減を塩梅申す新茶殿 古茶を啜り古書の山にも手を伸ばし
滴滴と分けるも染し新茶汲む 御僧と古茶を啜りて昼の雨
豆飯を食ふや新茶もごくごくと 心して古茶の別れを惜しむべし
山葵漬なめて新茶をいれかへて 夏は新茶、冬は蜜柑や富士を見て

14/2014.11
の味 14.24

2025 全然堂歳時記 夏

【新茶】

20句

2025年6月11日

10行2段

UD 明朝 Md 12 枡 桐 10

日本に新茶の五月来りけり 羊羹も沢庵も合ふ新茶なり
新茶なり若く幼き葉を摘んで チェスならば紅茶、将棋に汲む新茶
擣して新茶娘が駄頭に ぽつと出の新茶ばかりをもてはやす
送るてふ新茶を待てる釘煮かな コチャといふ音も愛しや古茶淹るる
うつすらと汗かくころの新茶かな ことと置く軽くて小さき古茶の缶
新茶とは葉の面影の無き緑 若きらに席を譲りて古茶啜る
湯加減を塩梅申す新茶殿 古茶を淹れ古書の山にも手を伸ばし
滴滴と分くるも楽し新茶汲む 御僧と古茶を啜りつ昼の雨
豆飯を食ふや新茶もごくごくと 心して古茶の別れを惜しむべし
山葵漬なめて新茶をいれかへて 夏は新茶、冬は蜜柑や富士を見て

新茶もてふ茶に

残る日

ぬる

6.10

22

55

2025 全然堂歳時記 夏

【新茶】

20句

2025年6月11日

10行2段

UD 明朝 Md 12 枳 10

日本に新茶の五月来りけり 羊羹も沢庵も合ふ新茶なり
うつすらと汗かくころの新茶かな チェスならば紅茶、将棋に汲む新茶
新茶なり若く幼き葉を摘んで ぼつと出の新茶ばかりが褒めらるる
新茶とは葉の面影の無き緑 コチャといふ音も愛しや古茶淹るる
擣して新茶娘が駄頭に ことと置く軽くて小さき古茶の缶
送るてふ新茶を待つてゐる釘煮 若きらに道を譲りて古茶啜る
湯加減を塩梅申す新茶殿 古茶を淹れ古書の山にも手を伸ばし
滴滴と分くるも楽し新茶注ぐ 御僧と古茶を啜りぬ昼の雨
豆飯を食ふや新茶もごくごくと 心して古茶の別れを惜しむべし
山葵漬なめて新茶をいれかへて 夏は新茶、冬は蜜柑よ富士を見て